



令和4年(2022年)9月5日(月)
広島市安佐動物公園 管理課長：与倉
担当：企画広報係 梅田、川田 ☎082-838-1111

オオサンショウウオが産卵

安佐動物公園のオオサンショウウオ保護増殖施設（非公開）において産卵がありました。産卵日は令和4年8月30日（火）、9月1日（木）で、産卵数は約1000個です。当園での産卵は令和2年9月27日以来の2年ぶりとなります。また、今回の産卵は、これまでで最も早い産卵日でした。

1 産卵

8月30日に産卵した個体は「クチ」（2006年11月に安佐町久地で保護された個体）です。クチは2013年から4回目の産卵です。

さらに、9月1日には「イガグリ」（1980年11月当園生まれの41歳の個体）が産卵しました。イガグリは2007年（平成19年）に世界初の三世繁殖に成功した個体で、17歳で初めて産卵してから15回の産卵経験があり、年齢が明らかな個体では世界最高齢での産卵記録を更新しました。

※オオサンショウウオの産卵行動について

自然界では、オオサンショウウオの産卵行動は多くの場合、雄複数頭と雌1頭で行われます。繁殖シーズンになると「ヌシ」と呼ばれる繁殖巣穴周辺で一番強い雄が繁殖巣穴を占有し、他の雄が繁殖巣穴に入ることを許しません。しかし、雌1頭がその巣穴に入って産卵行動が始まると、「ヌシ」のそれまでの攻撃性がなくなり、他の雄も巣穴に侵入して繁殖行動に参加できるようになります。一度の産卵が終ると、別の雌1頭と入れ替わり、同様の産卵行動が繰り返されます。このような産卵中の「ヌシ」の行動は、オオサンショウウオにみられるユニークな行動の一つです。

2 卵の展示（一般公開）

今回産まれた卵の一部（約30個）を巣穴から移動して、三井のリハウスぴーちくパーク内「どうぶつ子育ての家」で展示し、一般公開しています。オオサンショウウオの卵は数珠つなぎになって、まるで“真珠のネックレス”のような美しい卵です。

3 巣穴の撮影について

巣穴の卵は短時間であれば撮影可能ですが、状況によっては撮影できない場合もあります。なお、産卵のあったオオサンショウウオ保護増殖施設は非公開施設のため取材を希望される場合は予めご連絡ください。



産卵後の巣穴（8/30撮影）

- 開園時間** 午前9時から午後4時30分まで（ただし、入園は午後4時まで）
- 入園料** 大人510円、65歳以上・小人（高校生及び高校生相当年齢）170円 ※中学生以下無料
※65歳以上の適用には公的証明書が必要
- 休園日** 毎週木曜日（ただし、祝日の場合は開園）